



子供たちに「温かさ」を与えたい

4月から、日本サッカー協会による「JFAアカデミー福島(サッカーによる真の国際人育成支援事業)」がスタートしました。

この事業は、将来、日本サッカーを背負って立つ選手を輩出することを目的に、優秀な指導者と専用の寮・練習場など、充実した施設を整えて長期的かつ集中的に選手を育成するとともに、世界基準の人材育成を目指すものです。

広野町では、この事業に参加する中学生と高校生が、慣れない環境下でスムーズな社会生活を送れるように、第2の家族である広野町サポートファミリーを募集しました。そこで今回は、サポートファミリーとして登録された方に応募された動機を伺いました。



鈴木孝一・たか子 夫妻
上北迫・竹の下

トリノオリンピックでの荒川静香の晴れ姿!そして、まだ記憶に残る王ジャパンの世界大会での選手のドラマ!あの喜びを共有して感激したこと



は忘れられません。世界中の人々を感動させたあの選手も、整った環境と適切な育成指導があればこの栄光に違いありません。

そして、今この地元でも日本サッカーを背負って世界にはばたく選手を育成しようとプロジェクトが動き出したことは、これまで運営してこられた多くの方々の努力にエールを送ります。

大きな夢に向かって育っていく若者を身近にサポートすることは、何ら自分子供と変わりありません。自分の子供

たちも多くの皆さんに助けられ成長してきたはずですから、微力ながら一杯協力します。



高木 幸一さん
上浅見川・小松

「JFAアカデミー福島」に全国から17人の中学生が参加することを聞き、広野町サポートファミリーとして登録しました。

サッカーに「夢」と「希望」を抱いて広野に来るわけですが、まだ13歳の年頃で見知らぬ土地で生活することは、望んで参加するとはいえ、われわれの年代からすれば大変なことです。

かつて、娘がロータリークラブの交流事業でニューヨークのホストファミリーに1ヶ月お世話になったことがあり、その1ヶ月間の中で言葉や文化の違いはあれ、人の「温かさ」に触れた貴重な経験を持っています。今、アカデミー福島の参加者にサポートファミリーとして「温かさ」を与えられればと思っています。

編集後記

議会広報全国コンクール「奨励賞」受賞という喜びと緊張の中での編集委員会でした。

18年第1回定例会、第1回臨時会、そして、議会議員定数に関する調査特別委員会と内容が多く、今までになく時間を費やした編集作業でした。

発言の内容を変えることなく、分りやすさを念頭におきながら編集いたしました。より良い広報紙づくりに専念してまいりますので、ご意見・ご感想をお寄せください。(渡邊)

広報委員会

- 議長 坂本 紀一
- 委員長 猪狩新一郎
- 副委員長 塩 史子
- 委員 中津 伸一
- 委員 渡邊 正俊

次の定例会は6月です